

## 第 7 編

### 経 済 観 光



橘丸寄港

#### ——内 容——

- 1 商 工
- 2 観 光
- 3 みなとまちづくり
- 4 移 住 定 住
- 5 農 業
- 6 漁 業

# 1 商 工

本市は、安房地域の経済、文化の中心地であり、特に商業は市の経済や豊かな市民生活を支える重要な役割を果たしている。しかし近年、消費者ニーズの多様化、大型店の進出、モータリゼーションの進展などにより、本市商業を取り巻く環境には厳しいものがある。

一方、東関東自動車道館山線等の全線開通により、通年型の観光客が見込まれ消費の拡大に期待を寄せている。

本市の工業については、家内工業的な小規模事業所が点在している状況である。

## (1) 商店数、従業者数、年間販売額

平成 24. 2. 1 経済センサス活動調査(単位万円)

分類	商店数	従業者数	年間販売額
総 数	6 5 2 店	3, 8 8 0 人	8, 2 0 6, 7 0 0
一 般 卸 売 業	1 3 0 店	7 4 2 人	2, 7 7 7, 4 0 0
小 売 業	5 2 2 店	3, 1 3 8 人	5, 4 2 9, 3 0 0

## (2) 工業の分類別事業所数、従業者数

平成 24. 2. 1 経済センサス活動調査(単位万円)

産業(中)分類	事業所数	従業者数	産業(中)分類	事業所数	従業者数
食料品	16	243	非鉄		
飲料・たばこ			金属製品	3	36
繊維	4	58	はん用機械	0	0
木材・木製品	-	-	生産用機械	7	109
家具・装備品	1	4	業務用機械	1	38
パルプ・紙	1	25	電子・デバイス	3	874
印刷	4	78	電気機械	1	10
化学	1	6	情報通信機械		
石油・石炭			輸送用機械	4	124
プラスチック	1	4	その他	6	69
ゴム	1	7			
なめし革					
窯業・土石	4	90			
鉄鋼			合計	58	1775

※従業者3人以下は除く。

## (3) 中小企業資金融資対策

資金貸付制度(信用保証料は貸付日より3年間分のみ市費負担) 平成26年4月1日現在

種類	区分	貸付限度額	貸付期間	利子補給		利率	
一般事業資金	運転資金	1,000万円	5年以内	1%	3年以内	1年以内	2.20%
	設備資金	2,000万円	10年以内	1%	3年以内	1年～3年	2.40%
小口零細企業保証制度資金	運転資金	1,000万円	5年以内	1%	3年以内	3年～5年	2.70%
	設備資金	1,250万円	10年以内	1%	3年以内	5年～10年	3.20%

貸 付 決 定					
運 転 資 金		設 備 資 金		合 計	
件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
21 件	108,700 千円	3 件	9,700 千円	24 件	118,400 千円

#### (4) 商工団体等への助成等 (平成26年度当初予算ベース)

館山商工会議所補助金	7,071 千円
館山市商店会連合会補助金	1,800 千円
館山たばこ販売組合補助金	220 千円
中小企業融資預託金	45,000 千円
中小企業融資保証料補給金	4,030 千円
中小企業融資利子補給金	3,251 千円
小規模事業者経営改善資金利子補給金	4,191 千円
房州うちわ振興協議会補助金	291 千円
館山商工会議所施設改修事業補助金	1,045 千円
地域経済活性化対策事業補助金	1,000 千円

#### (5) 消費生活相談 157件 (平成25年度相談件数)

商品やサービスについての苦情、相談に面接や電話で応じている。

近年は、架空請求や点検商法等の悪質商法の被害を受けた市民の相談が多く、高齢者の高額な被害も目立つ。また、パソコンや携帯電話での有料サイトへの接続による被害等は若者に多い状況である。多重債務に関する相談も増加傾向にある。また、個人情報保護に関する相談も見受けられる。

悪質商法の手口、種類等が次々変化し、巧妙になってきており、最新の情報を把握し、相談に応じている。

## 2 観 光

本市は、南房総国定公園内に位置し、恵まれた自然と温暖な気候により古くから保養地、海浜リゾート地として、また近年では花の産地としてその名を知られ、首都圏各地からの観光客に親しまれている。

近年、高速道路網等の整備など、アクセスルートの拡大に伴いアクセス性の向上により、本市は首都圏における観光レクリエーション都市としての飛躍が期待できる。そのため、恵まれた立地や風土を十分活用した新たな観光資源開発、体験観光の推進、教育旅行を含む積極的な観光客の誘致活動を推し進め、現在の春夏の二期型から通年型への移行を図っている。

また、平成19年の日本風景街道「南房総・花海街道」の認定など、南房総エリア一体となった広域連携による滞在型の観光地づくりを推進している。

## (1) 観光客入込数

単位：人

観光客入込数		平成23年	平成24年	平成25年
		1,544,000	1,708,000	1,754,000
内	利用交通機関別			
	鉄道	252,000	251,000	257,000
	貸切バス	181,000	209,000	215,000
	自家用車	1,090,000	1,225,000	1,258,000
	その他	21,000	23,000	24,000
内	宿泊別			
	日帰り客	1,179,000	1,371,000	1,383,000
	宿泊客	365,000	337,000	371,000
訳	目的別			
	海水浴	48,000	76,000	95,000
	海釣り	調査項目なし	調査項目なし	調査項目なし
	社寺参詣	292,000	278,000	268,000
	花見	100,000	115,000	119,000
	ゴルフ	122,000	120,000	120,000
	遊園地	234,000	226,000	246,000
	文化財等見学	77,000	178,000	193,000
	いちご狩り	84,000	128,000	125,000
	テニス	調査項目なし	調査項目なし	調査項目なし
	サーフィン	93,000	108,000	113,000
	各種催物	397,000	376,000	384,000
	その他	97,000	103,000	91,000

## (2) 市内の宿泊施設

H26. 3. 31 現在

民間施設			公的施設		
	数	収容人員		数	収容人員
ホテル	3	197人	休暇村館山	1	288人
旅館	95	4,621人			
簡易宿所(年間)	40	738人			
簡易宿所(季節)	10	204人			
下宿	0	0人			
計	148	5,760人	計	1	288人

(資料 安房健康福祉センター)

## (3) 主な観光行事(平成26年)

- ① 花摘み園(1月～5月上旬)……特産のアイスランドポピーの摘み取り
- ② 観光いちご園(1月上旬～5月上旬)
- ③ 観光定置網(3月～11月)……本場の定置網漁業体験
- ④ 館山観光まつり(7月20日～8月10日)  
……館山湾花火大会、館山オープンウォータースイムレース  
全国大学フラメンコフェスティバル他
- ⑤ 安房国司祭(9月敬老の日の前の土日)……安房地方最大規模の例大祭
- ⑥ 南総里見まつり(10月18日)……武者行列等

#### (4) 観光宣伝

- ① 観光パンフレットを作成し、観光案内所や観光施設、各種イベントにおいて広く内外に頒布紹介している。
- ② 市ホームページによる観光宣伝
- ③ 県内外で開催する千葉県観光・物産展に参加し、本市の優れた各種物産と観光を県内外に紹介している。
- ④ 南房総観光連盟（安房郡市）による広域的な観光宣伝事業の実施。
- ⑤ ちば観光プロモーション協議会（千葉県・市町村・観光事業者等）による県内外への観光宣伝事業の実施。
- ⑥ 館山体験交流協会と連携した修学旅行等誘致のための観光宣伝活動の実施。
- ⑦ 中野区と館山市ほか4市による連携による交流事業の実施。「なかの里・まち連携宣言」（H21.3.28）
- ⑧ 宿泊・滞在型観光推進協議会（館山市・富津市・鴨川市・南房総市・鋸南町による神奈川方面からの観光客誘致（H22.4.1～）
- ⑨ マスコットキャラクター「ダッペエ」を活用した館山市のPR活動
- ⑩ テレビの旅番組やドラマ・映画の撮影を通じて館山市の魅力を紹介

#### (5) 体験観光

観光事業者やNPO等が、ウミホテル観察や戦跡めぐりなど50種類以上の体験メニューをそろえて観光客や修学旅行者に提供している。

平成25年度修学旅行等実績 62校 4,993人

#### (6) 館山温泉郷

平成17年5月に館山温泉組合が設立され、同年10月に館山温泉郷開湯宣言を行った。市の観光振興支援事業補助金などを利用し、全国に温泉をPR、施設整備等を実施している。組合加入施設数 14施設（平成26年4月現在）

#### (7) 館山市の民芸品、土産物

房州うちわ、唐棧織、貝細工、里見焼き、玉黄金らっきょう、はちみつびわ最中、花菜っ娘、牛乳せんべい、八犬伝まんじゅう、魚貝類など

#### (8) 館山新・ご当地グルメ

一年を通して豊富な魚介類が水揚げされる館山の地場産食材を活かし、食によるまちおこしをしようと、「館山炙り海鮮丼」・「館山旬な八色丼」に続き「新・ご当地グルメ」の第三弾として、館山新・ご当地グルメ推進協議会により「館山伊勢海老ステーキ御膳」が開発された。市内の4店舗で提供。

#### (9) 観光団体への補助

館山市観光協会に対し補助金を交付……平成25年度 11,000千円

## (10) 観光振興支援事業補助金

魅力的な観光地づくりを目指し、民間団体などが行う観光振興に資する事業の実施を支援するため、補助金を交付する。

平成25年度 4団体 1,934千円

## 3 みなとまちづくり

### (1) 多目的観光栈橋と館山港交流拠点「“渚の駅” たてやま」

館山港が、港湾の個性や魅力を活かした「みなとまちづくり」を推し進めることで、地域経済の振興に重要な役割を果たすことが期待できる港湾として『特定地域振興重要港湾（平成12年5月）』に指定されたことを受け、国・県・市の三者共同による『館山港港湾振興ビジョン（平成14年）』、及び『館山湾振興ビジョン（平成21年）』が館山市により策定された。

ビジョンでは、海での観光・レクリエーション分野を推進して、地域を発展させていく施策が掲げられ、この実現に向け、中核的施設となる「多目的観光栈橋（※1）」、その基部の交流拠点として「“渚の駅” たてやま（※2）」が、それぞれ千葉県と館山市により整備が進められた。

今年度秋のオープンに向け商業施設棟の建設を進めており、施設を中心にさらなる地域の魅力向上、交流人口の拡大など地域を活性化させる取組みに期待が寄せられている。

#### (※1) 多目的観光栈橋

平成18年度末	漁業関係者の同意取得
平成19年度	陸上部分工事完了
平成20年度	栈橋部分工事着工（デザインビルド方式採用）
平成22年度	供用開始（平成22年4月25日）
平成23年度	愛称「館山夕日栈橋」となる（市民公募による）

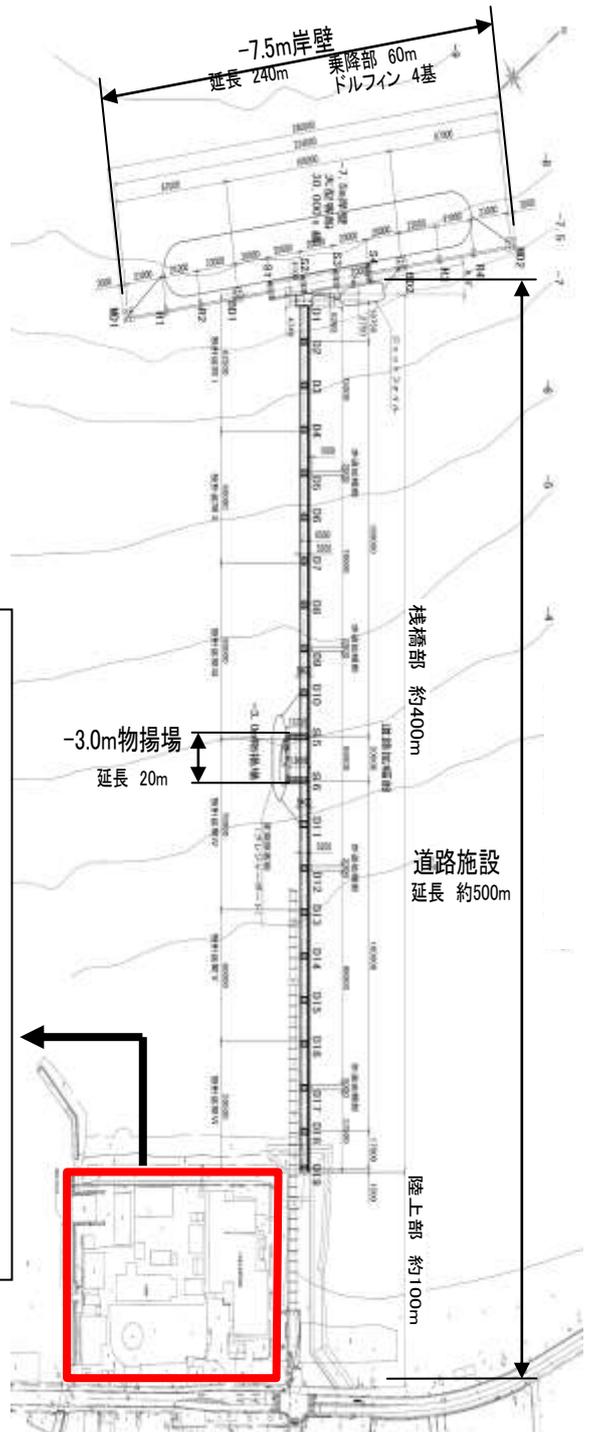
#### (※2) 館山港交流拠点「“渚の駅” たてやま」

平成19年度	館山港交流拠点整備基本計画策定（渚の駅づくり検討委員会、渚の駅づくり市民ワーキング会議）
平成21年度	県立安房博物館移譲（平成21年4月1日） 「“渚の駅” たてやま」整備着手
平成23年度	供用開始（平成24年3月25日）

**【多目的観光棧橋概要】**  
 整備主体 千葉県  
 事業費 約15億円  
 (1)水深7.5m岸壁  
 延長240m、乗降部60m、ドルフィン4基  
 対象船舶：大型客船、官公庁船、定期旅客船  
 (2)水深3.0m物揚場  
 延長20m(道路部と一部共用)  
 対象船舶：湾内遊覧船、プレジャーボート  
 (3)道路施設  
 延長500m、車道幅員4.0m、歩道幅員1.5m



(「渚の駅」たてやま)



## (2) 大型客船の寄港と地域活性化

『館山港港湾振興ビジョン』に示された地域振興策の一つに、大型客船の寄港があり、本市では、船会社への積極的な誘致活動を展開してきた。

その結果、平成15年3月の客船「飛鳥」の初寄港を皮切りに、日本を代表する各豪華客船が毎年寄港するまでに至っている。

特に毎年行われる8月8日の「館山湾花火大会」には、客船「にっぽん丸」による“夏休み 館山花火クルーズ”が、ツアー商品として定番化された。

大型客船の寄港は地域に明るい話題と大きなインパクトを与えるとともに、寄港の度に行われる様々な歓迎行事や地域でのオプションツアーは、市民との交流や地域経済の活性化に影響を与えるまでになっている。

また、大型客船の寄港は、直接的な経済効果のみならず、多大な広告効果があり、本市の知名度向上などが期待できるため、一層の客船誘致は「観光立市館山」の実現に大きく寄与し、地域活性化の契機になるものと考えている。

### (3) 海路開設に向けた取組み

平成16年7月の東京～館山～下田を結ぶ高速ジェット船（東海汽船株）によるモニター運航（国土交通省・館山市）に始まり、平成17年3月の東京～館山～大島間の試験運航を経て、平成18年早春から、館山～大島～下田間及び東京～館山～大島間の季節運航が実現し、運航日数等の拡大とともに利用者も増加した。

また、平成20年5月には、高速ジェット船（東海汽船株）による200人限定企画『市長と行く神津島への館山市民号』が成功裡に終了したことで、新たな海路の開設は観光圏を拡大させる可能性があることが認識された。

以後、観光圏を拡大させるために、館山港から新島、式根島、館山港から神津島、新島、式根島、大島、館山港から大島、三宅島、小笠原諸島を新たな海路で結ぶなど、現在もなお観光圏を拡大させる取組みが継続して行われている。

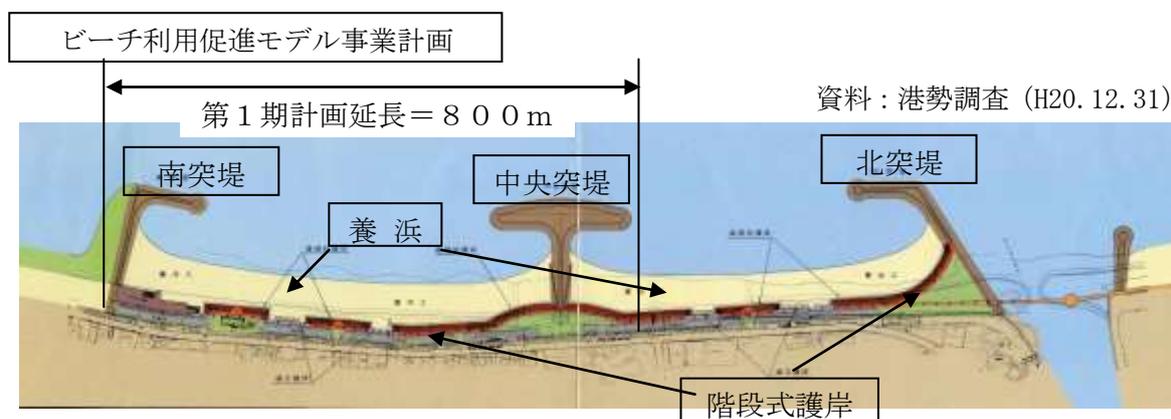
新たな海路の開設は、観光客や地域住民のアクセス性を向上させ、商圏が拡大するなどの効果が認識されており、その需要や課題等を様々な角度から分析し、旅客船を利用した新たな旅行商品などの開発は、館山港を拠点とした交流人口の増大や、地域の活性化に効果があると考えている。

### (4) 賑わい空間の創出

現在、館山港海岸（北条海岸）では、深刻化する高潮・侵食等の災害から、市民の生命と財産を守り、良好なレクリエーション環境を創出するため、千葉県による「ビーチ利用促進モデル事業」が進められている。

また、この第1期事業区間の延長800mの整備にあわせ、海浜部を南北に縦走する都市計画道路船形館山港線の延長1,270mの間で、南欧風の景観整備と電線を地中化する「海辺のまちづくり」のシンボルロードとなる「鏡ヶ浦通り」の整備が進められた。

整備された「鏡ヶ浦通り」と本市の恵まれた資源である“海”を生かしながら、新たな海辺の賑わい空間及び景観に配慮した街並みの創出を図り、多くの来訪者で賑わう出会いと交流の場を形成し、交流人口の拡大につなげていく。



## 4 移住定住

移住定住を促進することは人口減少を抑え、地域経済の活性化を図る重要な施策である。

平成 19 年度から、戦後日本の経済成長を支えてきた「団塊世代」といわれる人々が、定年を迎えはじめるのを契機に、この「団塊世代」を本市に誘致することを目的として、専任職員を置いて対応を開始した。当初は、移住定住事業に関連する民間団体である NPO 法人「いなかがらし応援団」や館山商工会議所青年部が創立 50 周年記念事業として立ち上げた「おせっ会」などと連携し、事業を展開していた。

近年の間合せ件数の増加や相談内容の多様化に応えるため、平成 20 年度に NPO 法人化し、移住定住事業の推進に本格的に取り組んでいた「おせっ会」に平成 24 年度より移住相談業務を委託し、体制を強化している。

### (1) 移住定住相談業務

実際の移住相談は、当初見込んでいた「団塊世代」より、30 代、40 代の「子育て世代」からの相談が多く、傾向として「定年退職後、ゆつくりと田舎暮らし」より「豊かな自然環境での子育て」を希望する人が多いことがわかった。

移住相談を通じて本市へ移住する人は年々増加傾向にあり、これからも増加が見込まれる。今後も個々の事情に配慮した丁寧な対応を心掛け、一人でも多くの方の移住につなげていく。

市内への移住者数

平成 26 年 3 月 31 日現在

		平成 24 年		平成 25 年		合計 (人)	
		度 (人)	割合 (%)	度 (人)	割合 (%)		割合 (%)
年齢層	60 歳以上	3	6.4	4	6.9	7	6.7
	50 歳代	6	12.8	1	1.7	7	6.7
	40 歳代	10	21.3	16	27.6	26	24.8
	30 歳代	16	34.0	20	34.5	36	34.3
	20 歳代	8	17.0	5	8.6	13	12.3
	未成年	4	8.5	12	20.7	16	15.2
合計		47		58		105	

資料：NPO 法人おせっ会

### (2) 移住定住イベント

NPO 法人おせっ会に委託した移住相談業務は、移住相談以外に、移住定住につながるイベントの開催も委託している。

- ① 女性一人での移住希望者を対象とし、空き家対策も兼ねた「シェアハウス」の体験会を実施 (H25. 6. 22)
- ② 移住して来た人同士の「移住者交流会」を開催した。また、本市への移住希望している人も参加し、移住者からの生の声を聞く機会を提供した。(H25. 7. 6)

- ③ 独身の男女を対象に市内数カ所の飲食店を、時間を区切って移動しながら、交流を深めるイベント（安房コン）を実施（H25.11.9）
- ④ 市内の不動産業者に協力してもらい、移住を決断した人を対象に、いくつかの不動産物件をまわるツアーを実施（H26.1.18）

## 5 農 業

本市は、西に東京湾口、南は黒潮の北流する太平洋に面し、海洋性の影響を受けて、冬暖夏涼の西南暖地型を示すが、冬季は西の季節風が強く、営農作目に制約を受ける。平成 24 年の平均気温は、16.0 度で年間降水量 1,854 mm、昭和 46 年から平成 12 年までの平均初霜 11 月 29 日、終霜 3 月 29 日であり一部無霜地帯もある。

農家の経営規模は、1 戸平均 94 アールで零細農家が多く兼業化が著しく進んでいる。このような中で経営形態は米プラス野菜、花きまたは酪農といった複合型で自立への道を歩んでいる。

### （1）農家数及び農業従事者数

農家戸数	専業	兼 業		農業従事者数（販売農家）		
		一種	二種	総数	男	女
989	368	135	486	2,483	1,302	1,181

資料：2010 農林業センサス

### （2）経営耕地面積（販売農家）

（単位 ha）

総 数	田	畑	樹 園 地
932	701	210	21

資料：2010 農林業センサス

### （3）経営規模別農家数

総数	自給的農家	～29a	30～49a	50～99a	100～149a	150～199a	200a 以上
989	667	70	208	390	189	74	58

資料：2010 農林業センサス

### （4）担い手の育成・確保

大規模経営を目指す農業者だけではなく、兼業農家や小規模経営を含む意欲ある農業者が農業を維持継続できるよう、関係機関とともに連携した支援策を実施する。特に、集落営農や農業法人など組織による営農を推進するとともに、「人・農地プラン」を地域に導入することで、地域ぐるみでその課題や問題の解決に取組み、集落の営農環境を維持できるよう支援していく。

また、6 次産業化や地産地消の推進により、多様で多角的な農業経営を促進し、近年の農業情勢に対応できる力強く安定的な農業経営体を地域農業の担い手として育成する。

さらに、若者や定年帰農者など地域の新たな担い手となる新規就農者を育成・確保するため、それらが円滑に就農できる環境を整備し、関係機関と連携した多様な支援

を展開していくとともに、地域おこし協力隊事業による農業振興活動をモデルとし、農業が若者にとって魅力的な産業となるよう情報発信していく。

#### ①認定農業者制度

認定農業者制度は、経営改善を図ろうとする農業者が作成した「農業経営化改善計画」を市が認定。制度資金融資やリース事業など支援策を受けることができる。

認定農業者数：118経営体（平成26年4月1日現在）

#### ②新規就農者支援

将来の担い手となり得る新たな人材の育成・確保を図る。農地確保、技術習得などについて、関係機関と連携した支援を行う。

#### ③集落営農の推進

地域農業の生産性向上、後継者が不足している地域における農業生産活動の維持を図るため、小規模な農家や兼業農家も参加した集落営農の育成確保を推進。

#### ④「人・農地プラン」の作成推進

集落の話し合いによって作成する人と農地の問題を解決するための「未来の設計図」。平成23年度からの国の主要な農業施策で、今後の中心となる経営体（個人・法人・集落営農）はどうか、また、中心となる経営体にどうやって農地を集積するかなど、集落における地域農業のあり方などを定めるもの。「人・農地プラン」を作成した場合、青年就農給付金や農地集積協力金などの支援策を受けることができる。

「人・農地プラン」作成集落：2集落（平成26年4月1日現在）

#### ⑤地域おこし協力隊事業の推進

人口減少や高齢化等で担い手の不足する農村集落において、都市部など地域外の人材を「地域おこし協力隊員」として活用し、農作業や地域活動に協力してもらい、その地域に定住・定着してもらうことで、農村集落の活性化を図る。

隊員数：2名（平成26年4月1日現在）

地域にて3年間活動（活動中は地域に居住、活動終了後は自立して地域に定住）

活動内容

- ・農業技術等の研修、
- ・農村地域での農業支援、
- ・耕作放棄地の活用、
- ・地域行事などへの協力、
- ・農業の6次産業化や地産地消の推進活動、
- ・その他農業の振興に関する活動

## (5) 園 芸

本市での園芸は、野菜、花きの栽培を中心に営まれている。

栽培される農作物は、多様化する消費者にニーズや産地間競争などの厳しい社会状況に対応するために、エコファーマー、ちばエコ農作物の認定を取得するなど、農作物の高品質化やブランド化が図られている。

#### ①野菜・花き・果樹

農作物の付加価値をあげるために、神戸地区のレタス、館野・豊房地区のいちご、西岬のひまわり、種子なしびわなど、地域性を活かした農作物や他地域に類の見ない

農作物の栽培、野菜産地指定・エコ農作物の取得による地域ブランド化や、農作物を高品質で生産・出荷が可能となる農業施設の整備が図られている。

・エコファーマー

認定者：79名

農作物：10種目（レタス、ブロッコリー、そらまめ、食用とうもろこし、  
トマト、いちご、水稻、セルリー、ストック、カーネーション）

・ちばエコ農作物

農作物：8種目（食用なばな、そらまめ、レタス、水稻、食用とうもろこし、  
びわ、じねんじょ、いちじく）

## (6) 畜産

歴史・伝統のある安房地域の畜産は、飼料の高騰化、低価格の乳製品、生肉の輸入や家畜糞尿の適正な処理への対応が求められる中、36戸の畜産農家により営まれ、飼育頭数は1万頭を越し、その種類は、乳牛・肉牛・豚・鶏と幅広い。

また、家畜防疫対策については、日常の衛生管理の徹底と、予防接種、検査等を的確に実施するよう指導に努めている。

## (7) 農業生産

(単位 千万円)

項目	産出額	備考
米	84	
穀類、豆類	4	大豆・小豆・落花生
いも類	7	
野菜	149	
果実	16	
花き	153	

資料：千葉県生産農業所得統計（平成18年）※

※平成19年産から市町村別の農業産出額の公表が廃止されたため、直近で地域（市町村）別の状況把握が可能な18年産データに基づき記載している。

## (8) 農業委員会

農業委員会は、地方自治法第180条の5第3項によって市町村に設置が義務付けられている機関で、公職選挙法を準用した選挙によって選ばれた農業委員を中心に構成される合議体の行政委員会。「選挙」および「選任」によって農業者が自らの代表を選ぶ農業委員会は、公的に認められた唯一の農業・農業者を代表する機関となっている。農地の権利調整や農業経営の合理化等の農業振興対策、農業・農業者に関する問題、課題についての建議や意見の公表、またその諮問に応じて答申することを業務としている。

農業委員の数	18名（選挙委員13名 選任委員5名）
農業委員の任期	3年（平成26年7月20日から平成29年7月19日まで）
選挙人名簿登載者数 (平成26年3月31日現在)	2,461名

耕作目的の農地等の権利調整

(面積は㎡)

農地法第3条				農業経営基盤強化促進法			
年度	H23	H24	H25	年度	H23	H24	H25
件数	37	30	34	件数	146	142	140
面積	60,617	34,234	50,840	面積	480,046	416,164	332,604
田	48,386	29,572	44,079	田	399,347	343,118	303,787
畑	12,231	4,662	6,761	畑	80,700	73,046	28,817

農地転用

(面積は㎡)

農地法第4条				農地法第5条			
年度	H23	H24	H25	年度	H23	H24	H25
件数	5	5	7	件数	61	55	56
面積	4,791	4,171	8,181	面積	42,445	36,063	41,755
田	4,542	2,538	5,626	田	30,093	27,089	23,529
畑	249	1,633	2,555	畑	12,351	8,974	18,226

農業者年金

農業者の老後の生活安定を図ることを目的とした国民年金の上乗せ年金である。

年 度	新制度			旧制度	
	受給者数	待期者数	被保険者数	受給者数	待期者数
平成 23 年度末	7	20	35	326	38
平成 24 年度末	12	18	32	294	30
平成 25 年度末	14	17	33	274	27

※ 新制度とは、H14年1月以降の農業者年金。旧制度はそれ以前のもの。

※ 待期者とは、保険料納付が終了した受給待ちの人。

## 6 漁 業

房総半島の西南端にあり三方を海に囲まれ、海岸線は31.5キロに及び、布良の鬼ヶ瀬、さらに沖合に伊豆七島、西に東京湾口の深海を控え沿岸一帯は岩礁が多く、このような自然的要因が漁業に適しているばかりでなく、暖流の影響を受けて回遊魚族が近海に多い。

本市の漁家は、118戸で漁業従事者は208人であり、平成23年の年間の漁獲高は、約8億円である。

漁業種類としては、まき網漁業、近海カツオ一本釣り、刺し網、定置網漁業等漁船漁業のほか、時期により採貝、採藻等の沿岸ないし近海漁業が盛んである。

魚種の主なものは、イワシ、アジ、サバ、ソウダカツオ、ブリ、スズキ、カツオ、サザエ、イカ等である。その大部分が沿岸漁業であり、小型の漁船が多く、漁業根拠地も沿岸地先を利用している。このため、各地に散在する船溜りを拡充しながら営んできた結果、地方港湾1、第3種漁港1、第2種漁港1、第1種漁港8を算し漁業協同組合も結成され、現在5団体となっている。

本市の漁業・水産業は、長年、食生活の基盤を支えるとともに、地域の経済活動においても重要な役割を担ってきた。

しかし近年、漁業を取り巻く状況は、獲りすぎや管理不足・漁場の環境変動等による水産資源の減少が懸念されており、水産資源の適切な管理が必要とされている。このため、種苗放流等による、つくり育てる漁業、いわゆる栽培漁業の振興が図られている。

また、魚離れ等による魚価安や、弱い販売力、コスト高、さらに高齢化が進み、水産関連産業の衰退が課題となっている。

本市では、経営の合理化や近代化を推進するべく、基幹漁港の整備や、魚礁設置事業による漁場の造成を実施しており、また、関連産業等との連携や、地域資源の活用による、漁業・水産業の安定的な発展が図られている。

### (1) 専兼別経営体数及び漁業就業者数

経営体数				漁業就業者数
総数	専業	兼業		総数
		漁業主	兼業主	
118戸	59戸	30戸	29戸	208人

資料：第11次漁業センサス (H20.11.1)

### (2) 規模別漁船隻数

規模別	隻数	総トン数
総数	339	931.9t
無動力船	1	87.0t
動力船	総数	338
	3t未満	257
	3～5t	46
	5～10t	9
	10～20t	26
		844.9t

資料：港勢調査 (H24.12.31)

### (3) 主な漁業別漁獲量 (t)

大型定置網	846.7	採藻	7.0
小型定置網	1478.5	採貝	15.2
まき網	1112.0	釣り・その他	69.4
刺し網	44.9		

資料：港勢調査 (H24.12.31)

### (4) 漁種別漁獲量 (t)

さば類	680.7	ぶり類	714.4
いわし類	702.4	その他魚類	684.9
かつお類	400.6	貝類(あわび・さざえ・とこぶし外)	18.1
まぐろ類	10.3	水産動物類(いか・たこ・えび・かに外)	59.5
あじ類	295.8	草類(わかめ・てんぐさ・ひじき外)	7.0

資料：港勢調査 (H24.12.31)